

コラム 広島県で発生した土石流災害における土木研究所の技術支援

広島県では、平成26年8月19日からの大雨により多数の箇所では土砂災害等が発生し、74名の犠牲者がでました。崩れた斜面から流れ出した土砂により救助活動中の消防隊員が巻き込まれて犠牲者が出たことや、度重なる降雨により二次災害の危険性が懸念され、捜索活動を中断する等、行方不明者の救助・捜索活動は難航しました。

土木研究所では、国からの要請を受け、土砂管理研究グループ長及び同グループ火山・土石流チームの9名の計10名を土砂災害の専門家として現地に派遣し、国土交通省国土技術政策総合研究所土砂災害研究部の職員とともに専門的見地から技術的助言を行いました。土木研究所職員らが助言した捜索中止の判断基準の考え方や捜索再開のための現地確認調査等に基づいて、県警・消防・自衛隊による降雨後の捜索活動再開時期が設定され、捜索活動の安全確保に貢献しました。その貢献に対して、住民の方々や自治体から感謝の言葉を頂くとともに、国土交通省中国地方整備局長より感謝状を頂きました。さらに、この災害における一連の取り組みが評価され、平成26年度全建賞を各地方整備局等と連名で受賞しました。



写真-1 広島県広島市安佐南区八木地区で発生した土石流災害



写真-2 県警や消防等災害対応関係者に対して捜索中止の判断基準の考え方の説明状況



写真-3 現地捜索活動再開のための安全確認調査結果について、自衛隊に説明する土木研究所職員と国土交通省 TEC-FORCE

平成26年8月豪雨災害（広島土砂災害）における災害対応支援への御礼。

独立行政法人土木研究所 理事長
魚本 健人 様

平素から中国地方整備局の業務運営に際し、ご指導、ご協力いただき心からお礼申し上げます。

平成26年8月20日発生した広島土砂災害への対応に際し、土木研究所は、国土交通省国土技術政策総合研究所土砂災害研究部の専門家など、多大な支援をいただき誠にありがとうございます。

今回の豪雨は、広島市安佐南区三入で時間雨量101.0ミリ、3時間雨量217.5ミリといずれも観測史上1位の値を更新する大雨となり、広島市安佐南区・安佐北区で、河川の氾濫や、土砂災害が発生し、死者74名、家屋の全半壊255件、床上・床下浸水4,111件という重大な被害をもたらしました。

当センターでは、8月20日午前より広島県及び広島市にリエゾンを派遣し、被災状況等の情報を国土技術政策総合研究所へ提供し、被害の被害状況や、被災地の状況と合わせて、災害対応体制を構築してまいりましたが、土砂災害の専門家による技術的助言が必要との判断により、貴研究所からのテクニカルチームの派遣を要請いたしました。

貴研究所から派遣いただいたテクニカルチームの御礼にはおぼつかないですが、被災地の上の状況や被災地において、捜索活動が難しく、大量の土砂や瓦礫、浸水が散見し、行方不明は捜索が難しいと懸念のもと、土砂災害の専門家等の派遣・支援に加え、被災地の安全確保のための点検や二次災害防止に関する技術的助言、土砂災害の二次災害防止等には無い被災地における技術的助言をいただくなど、これまでのテクニカルチームには無い多大な貢献をいただき、土砂災害の専門家として任務をこなす姿に敬意を込めてお礼申し上げます。

貴研究所の力量・支援活動によりまして、被災された住民の方々や自治体から国土交通省に対する多くの感謝の言葉をいただいております。また、官民や官民間からも高い評価をいただいております。

当センターとしましては、今回の貴研究所をおよびの支援に感謝して深く感謝申し上げます。被災した地域において多大なるご協力いただいた国土技術政策総合研究所、国土交通省、中国地方整備局の皆様にも心よりお礼申し上げます。

当センターとしましては、今回の経験と教訓をもとに、より迅速かつ的確な災害対応ができるよう取り組んで参りますので、今後ともご指導ご鞭撻を頂上とさせていただきます。また、引き続きでございますが、御中ももちまして、当センター職員一同、貴研究所のご支援に感謝の心からお礼申し上げます。

平成26年10月
中国地方整備局長

尾藤 勇

資料-1 中国地方整備局からのお礼状